

# 定時制課程におけるコミュニケーションの有効性

～教科指導における学力変化と意識変化～

兵庫県立神戸工業高等学校  
情報技術科 菅 圭介

## 1. はじめに

平成 21 年度、県立神戸工業高等学校に着任した当初、子ども達の前向きではない意識に対して自分自身が無意識に「フタ」をしているのではないか、という感覚を覚えた。

世間一般の意識として、定時制課程を選択して入学してくる子どもの学力は低いと思われている。実際は確かにその割合を占めていることは事実であるが、そのことにより先入観を持って教育活動にまで影響をもたらしているのではないか？また、家庭環境等における状況も宜しくない子どもたちが多し。確かに、反社会行為等によって、長期学校を休まなければならない子どもは存在する。定時制＝ヤンチャな子ども、というのが今においても世間の意識として色濃い。

定時制の子供たちはストレートな指導で接すると、ストレートに反応が返ってくる。時には何倍にもなって質を変えて降り注いでくるときもある。これも特徴の一つと捉えられる。

今の子ども達に数年前から良く言われていることの一つに「コミュニケーション能力の低下」がある。

問題点を改善するための取り組みはすでに全国区で様々な形で展開されている。その中で一つ素朴かつ単純な疑問が浮かんだ。

「コミュニケーションによる影響は学力や意識にどのような変化が生まれるのか？」である。

## 2. 目的

対象学年は 1 年生に絞った、入学して間もない生徒達にとってこの 1 年生の 1 年間の有意義に学校生活を送ることが出来る、またその中で様々な事に対する意識の変化が+に働く(向く)ようにしてあげれば 2 年生以降も大丈夫であるという自分自身の考えをもとに行った。限られた授業時間の中で最大限一人一人に関わることが出来る時間は単純計算 1 分もない。その 1 分もない中で、自分自身の指導計画の中で、「今日はこの子とこの子に質問をしてみよう」、「この子とあの子に討議させよう」と決めて授業に臨んでいた。コミュニケーションの取り方が教科指導においてどのように効果を成果として表出してくるか、一連の取り組みで、生徒自身が振り返って、自覚を持ち、自分の力で問題解決をしていけるようになる土台を築くことを最終目的とした。

## 3. 現状

本校に入学してくる子どもたちの大きな特徴は以下の 5 点がある。

- 基礎学力の不足
- 学習意欲が低い
- 基本的な生活習慣が出来ない
- 不本意入学
- 先生が大嫌い(苦手)

※以上のことから、入学直後から学校を休む、授業展開が難しい(問題行動等)などの事象が出てくる。

3 修制コースを選択する生徒が1クラス内で70%前後を占めており、4 修制コースを選択する生徒は少ない。ここには時代のニーズが大きく現れている。しかし、学年が上がるにつれ、単位を落とし4 修制に必然的に移行せざるを得ない生徒も多い。

## 必要なこととして...

- ・人間性
- ・基本的な信頼関係
- ・コミュニケーションの場作り
- ・相手の話への傾聴
- ・相手を思いやる行動

※コミュニケーションの目的に合った関わり方で変化が起きる。

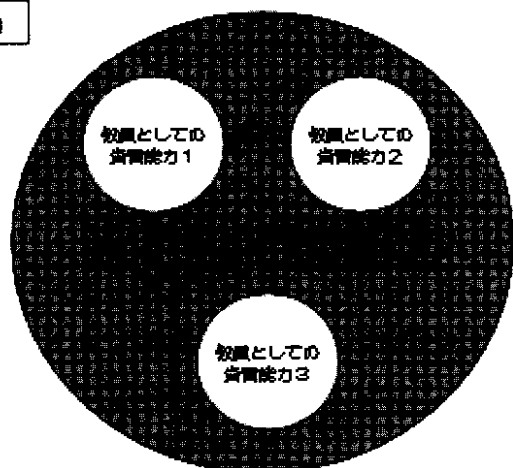
### 4. 取組内容

情報技術科1年生3 修生コース選択者を対象として行った。週二時間の授業、その他の場面等においてのコミュニケーションを工夫しながら取ることにより、どのような表情や言葉、態度仕草、出席率、考査素点、進路意識などの変化が見られるか確認した。

毎学期にアンケートを行い、意識変化を確認することも行った。

どのような場面においても必ず意識していたことは、教師と生徒との暗黙の壁は崩さないようにした。

前巻例



### 5. まとめ

コミュニケーションの取り方については、生徒と教師の壁を崩すやり方ではいけない。崩さずに生徒と接し、信頼関係を築くのは今の子供達には難しい部分でもあるが、こちらが凜とした姿勢で、本当に生徒を想い、どうにかこの力を身に付けさせてやりたい気持ちも伝えてさえいれば、生徒はそれに応えてくれた。定時制の生徒だから、中学生の時はこうだったからというような情報等により、先に先入観を持ってしまったら教科指導はもとより生徒指導も上手くいかない。それはその生徒にレッテルをはることになる。高校へ入学してくればどのような環境だったとしても、全員は同じスタートラインであることを十分に理解させることも大事である。教科担当と担任との連携も密にし、少しでも気になる点があればお互いが相談し合える教師間のコミュニケーションも、生徒とのコミュニケーションと同じぐらい大切であることが確認できた。

### 6 これからの時代に必要な資質能力

教科指導力や生徒指導力、保護者対応、説明責任能力等々、教員に求められる能力は多種多様である。その分、研修会等で常に最新の情報を手に入れ、その対応策を研究し続けなければならない。

これからの時代、更に求められる能力として生徒指導力に含まれるかもしれないが、カウンセリングが出来る教師であると感じている。

定時制、全日制関係なく、子ども全体のカウンセリングが必要とされる人数は多い。

カウンセラー専門員の領域を邪魔するということではない。

カウンセリングの基礎基本の能力を持っているのと持っていないのとでは、その子どものそれ以降の関わり方に大きな違いが出てくる。

生徒理解の手法の一つとしてでも、講座や研修会等に積極的に参加し身に付けて欲しい。